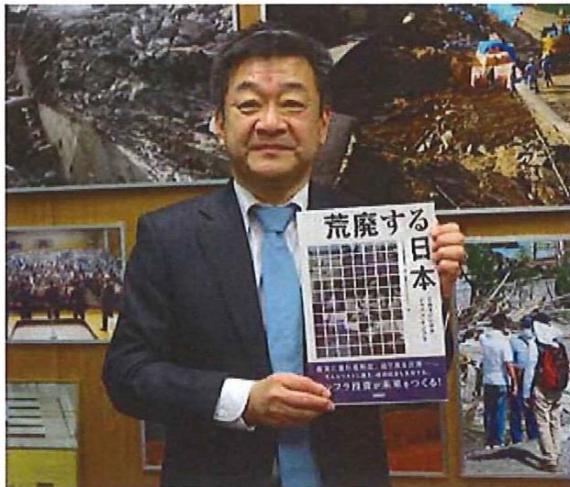


令和元年 12月 13日（金曜日）

建設通信新聞

『荒廃する日本—これでいいのかジャパン・インフラ』刊行



著書を手にする足立議員

足立敏之参院議員を中心とするインフラ再生研究会が執筆の『荒廃する日本—これでいいのかジャパン・インフラ』を11月に出版しました。

た。『荒廃するアメリカ』にならない。『荒廃するアメリカ』にならえて施設の老朽化に警鐘をならしつつ、激甚化する災害対応や国際競争力の観点からもインフラ投資の重要性を強調。国際比較など豊富なデータを基に、インフラ再

足立議員ら執筆 生の指針を示す。

される危機感を感じる」と語った。治水については、気候変動が明らかになっていて現状において、これまでの計画規模を完成させて直しが求められるとしているだけでは、災害は防げず、見つけつま合わせで、安全度をないがしろにすることになつてはならないと説く。

著者の足立参院議員は、各主要国における都市間の連絡速度や港湾別のコンテナ取り扱い数の比較を基に、日本が他国に比べて劣後していることを説明。その上で、「この水準で概成していると言つていたら、アジアの国々に取り残

された。『荒廃する日本』の中では年間8兆~8兆5000億円規模の公共事業関係費が必要となると結論付けており、「最前線で国土整備を行う建設企業が計画的に投資を行つたためには中長期的な投資計画の策定が必要だ」と力を込めた。